

令和4年9月6日

亀岡市議会議長 福井 英昭 様

亀岡市議会議会運営委員長 木曾 利廣

委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の結果について、亀岡市議会会議規則第110条の規定により下記のとおり報告します。

記

- 1 派遣期間 令和4年8月8日（月）～9日（火）
- 2 派遣場所 兵庫県西脇市、岡山県倉敷市
- 3 調査項目 議会改革の取組について
- 4 派遣議員
木曾利廣、西口純生、三上 泉、平本英久、松山雅行、藤本 弘、
菱田光紀 （議長：福井英昭）
- 5 概 要 別紙のとおり

視 察 概 要

◎令和4年8月8日（月）

視察場所 兵庫県西脇市議会

視察時間 午前10時00分～正午

調査項目 議会改革の取組について

説明者

西脇市議会

寺北議会運営委員会委員長（議会広報広聴特別委員会委員）

高瀬議会運営委員会副委員長（議会広報広聴特別委員会副委員長）

村井予算常任委員会委員長（議会運営委員会委員）

村岡議会広報広聴特別委員会委員長（副議長）

議会事務局 局長

林晴信西脇市議会議長 挨拶



視察風景



説明者



議場



視 察 場 所	兵庫県西脇市議会
調 査 項 目	議会改革の取組について
視 察 の 目 的	西脇市議会の議会改革の取組は、早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査において、全国総合順位が2019年1位、2020年3位、2021年13位と、大変高い評価を得られている。情報共有・住民参画・機能強化の3分野いずれもバランスよく取り組まれ、総合順位の押し上げにつながっており、本市議会のさらなる改革に向けて参考とするため。
施 策 等 の 概 要	<p>西脇市議会の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議会と語ろう会、予算広聴会のオンライン開催 ・ 請願者・陳情者の意見を聴く機会の創設 ・ 高校生版議会報告会 ・ 会議のインターネット中継・録画配信 ・ 議会だよりの充実 ・ 定例会反省会の実践 ・ 議会における政策サイクルの導入 ・ オンライン委員会の開催に向けた制度改正 等
考 察	<p>○議会と語ろう会のオンライン開催は、ホームページ等での告知のため、参加者は令和3年7人、令和4年5人と少ないが、通常の議会報告会では年配者や男性の参加が多い中で、オンライン形式では幅広い年代の参加があった。今後もオンライン形式での議会報告会を継続実施され、アプローチ方法を工夫することで参加者を増やし、子育て世代や女性等幅広い市民に参加いただき、多様な意見を聴く機会とする内容は、本市議会でも実施に当たっての問題点を精査し導入を考えるべきである。オンライン予算広聴会については、3月議会の予算審査において各常任委員会で事業選定の上、市ホームページで参加者を募集し、意見を聴取して予算審査の参考とされている。周知に時間がない中で参加者1人であったが、専門的な意見が出され予算審査に生かされていることから、本市議会でも予算審査をさらに充実させるために、理事者側の協力を求めて導入すべきと考える。定例会反省会については、毎定例会最終日の翌々の議会運営委員会で行われている。その内容は、市長との緊張感ある関係の保持について、委員会審査の在り方について、出資法人の報告の取扱いについて、会議等の挨拶について、議場における表彰伝達について、動議提出の際の進行についてなど、様々な問題点を議会としてどのように克服するか協議しており、定例会の充実につながるため本市も導入すべきと考えるが、各会派の議会運営に対</p>

	<p>する認識を共有することが課題である。</p> <p>○議会改革度調査の総合順位が常に高位にあって、議会機能強化として、予算広聴会の取組、定例会反省会の実践、議会における政策サイクルの導入、議員研修の充実等を進めている。議会のオンライン化については、行政側の参加を求めているが、現状では理解を得られておらず難しい状況とのことである。しかし、西脇市議会では、議会広報の観点も含めて、いかに市民福祉の増進に寄与できるか、秘密会などに課題の残る苦悩もあるが、様々な取組を積極的に導入し成果を挙げられている。議会改革の推進が市民福祉の増進につながっており、その実績は顕著なものがあると言える。</p> <p>○行政視察で議員が全て対応されるケースがこれまではなく、議員全員で議会運営に取り組まれている印象を強く受けた。一番関心を持っていた定例会反省会については、割合ソフトな反省会であり、それほど喧々諤々の議論を行うほどではないことが分かった。そのほかオンラインでの語ろう会や予算広聴会など新たな取組が行われている。うかがう限りテスト事業として取り組まれている印象を受けた。なお、予算広聴会は非常に難しい取組であろうと推察する。全体的に拝察して議会活性化に積極的であった。</p> <p>○議会と語ろう会ではオンライン形式にすることで、若い世代、子育て世代、女性などが参加されやすい工夫をしている。定例会ごとの反省会を実施され、議会の機能強化につなげている。議会報告会では、議員内で5名3班を編成しグループ分けして市民が話しやすいよう議員が司会進行役を務めており、後日市民からの意見を集約し常任委員会での取扱いまでをセットでやられている。</p> <p>○委員会のインターネット中継・録画配信については、情報共有のため、本会議、特別委員会、議員協議会等、全ての委員会を対象として実施しているが、そこまでの必要があるのか疑問に感じた。定例会ごとの反省会の実践については、議会のレベルアップにもつながり、よいことであると思うので、亀岡市議会でも検討し実践すべきと考える。</p> <p>○議会と語ろう会のオンライン開催については、手法としては面白いが、いかに若い世代に参加してもらいやすくするかが課題である。議会だよりモニターを今年度から取り入れており、亀岡市議会も検討してよいと思う。</p>
--	---

委員意見等

- オンライン会議については、本市議会でも議員に配付されているタブレット端末の活用と併せて進めるべきと考える。新型コロナウイルス感染症のまん延や災害時等における委員会開催のために、条例等の改正と実施要項をまとめることが急務である。オンライン予算広聴会については、予算審査の充実とともに市民への広聴として市民目線や専門的観点からも聴くことが大切である。定例会反省会はとても大切であると考える。二元代表制の下、市長と対等な立場において発言・行動することが常に問われることから、市長とは緊張ある関係でなければならないことを確認する必要があり、本市議会もできるだけ早く導入すべきと考える。
- 議会と語ろう会と本市のわがまちトークは類似点が多く、請願者・陳情者の意見を聞くこともすでに実施している。常任委員会のインターネット配信は、さらに充実させなければならないが、不穏当発言の注意等の問題もあり、録画配信でもやむを得ないと思う。
- 定例会後の反省会は大変有意義で、議会力を上げる取組だと実感した。分からない点を全員で確認でき、議会運営の際の対処スキルが向上するため、本市議会でも導入してはどうか。西脇市は市長部局主催の地域こん談会がないため、議会としてどこまで答えたらよいのか、市長部局にどこまで出せばよいのか苦慮しているように感じた。市長部局による地域こん談会が開催されている亀岡市では、その点、議会としての対応をすればよいので分かりやすいのではないかと感じた。千代川町で行った新しいスタイルのわがまちトークが今後につながる教訓を導き出したが、残念ながらコロナでストップしている。旧来の議会報告会のイメージを持っている自治会も多くあり、積極的に名乗り挙げてもらえていないが、取組を復活させたときの周知や働きかけが重要になってくる。いずれにしても、小グループで意見の出しやすい環境づくり、進め役のスキルアップなどは共通するポイントだと思う。今年度の議会運営委員会での検討の中で、ファシリテーターのスキルアップと研修の必要性について意見しているが、その点はやっていくべきである。議会だよりのモニター制度導入も興味深く、本市議会でも導入できればよいと思う。西脇市議会はそのようなことにも予算をかけているが、詳細は聞けなかった。事務局を通じて聞いてもらえるとありがたい。どこまで市民に議会だよりを読んでいただいているのか、どの市議会も気になることである。モニターの人には一定の興味と知識を持っているが、一般市民の反応が気になる。オンライン

	<p>委員会については条例改正を含めて検討してみてもどうか。</p> <p>○本市議会においてこれまでに議会活性化に取り組んできたことを考えると決して遜色しておらず、現在導入を検討しているオンライン委員会の在り方は大いに参考になる。また、定例会反省会は試行的にでも行ってはどうか。手法こそ違えど目指すべき議会像はかなり近いのではないかと考える。</p> <p>○議会の機能強化に向けて、定例会ごとの反省会を議会運営委員会において実施すべきである。議会報告会は開催して終わりではなく、そこで出た市民意見を集約する必要があり、開催後に議会運営委員会で意見の取扱いを協議の上、所管の常任委員会で議論し、行政への提言までをワンセットとして進めていく必要がある。</p> <p>○平成20年2月に議員定数削減の陳情書が提出され、議員定数を20人から16人に削減されたとのことであった。あまり定数を減らすと議会の権能まで低下してしまう。市民には身を切った改革のように見えるが、本当の改革として、議会に必要な人数は何名か、議会が権能を十分発揮するには何名の議員が必要なのかを十分検討することが大切である。定例会後の反省会は、亀岡市議会でも検討を行い、取り入れていければと考える。</p> <p>○議会に対して若い世代や女性に関心を持ってもらい、意見を取り入れる手法を今後も模索していく必要がある。議会モニターや議会だよりモニターについては検討してはどうか。</p>
--	---

視 察 概 要

◎令和4年8月9日（火）

視察場所 岡山県倉敷市議会

視察時間 午前10時00分～正午

調査項目 議会改革の取組について

説明者

倉敷市議会事務局

局長、副参事兼議事調査課長、総務課長代理、議事調査課主幹

中西公仁倉敷市議会議長 挨拶



説明者



視察風景



議場



視 察 場 所	岡山県倉敷市議会
調 査 項 目	議会改革の取組について
視 察 の 目 的	<p>倉敷市議会では、ペーパーレス化の本格実施（令和4年4月）や、コロナ禍において必要な制度を早期に改正し、県内初となるオンライン委員会を開催（令和4年5月）するなど、現在の社会情勢に適応した議会の機能強化や改革に積極的に取り組まれており、本市議会の課題解決やさらなる改革に向けて参考とするため。</p>
施 策 等 の 概 要	<p>倉敷市議会の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での委員会のオンライン開催 ・ ペーパーレス化の本格実施 ・ タブレット端末の活用 ・ 倉敷市議会基本条例の制定、検証 ・ 市民へのアンケート調査、市民モニター制度の活用 ・ 各常任委員会単位での市民意見交換会の開催 ・ 予算決算委員会の設置による予算・決算審査の連動 等
考 察	<p>○オンライン委員会開催のため、委員会条例に委員会の開会方法の特例として、新型コロナウイルス感染症その他感染症のまん延又は災害等により、委員が委員会の開会場所に参集すること困難であると認めるときは、オンラインによる方法を利用して委員会を開くことができると規定している。実際にオンライン委員会を開催したのは1回だけであるが、今後委員会が非常時等でもしっかり開催できることは、議会運営上や危機管理上で大切である。本市議会を導入する場合、委員会条例の改正や要綱等の整備、ネットワーク環境、ペーパーレス会議の検討が必要であると考えます。</p> <p>○委員会のオンライン化については、積極的に取り組んできた経過や秘密会の対応で守秘義務の観点から課題を残すことも知ることもできた。行政側にオンライン化の参加を求めた中で、ペーパーレス化に疎くあまり理解が得られなかったようであるが、議会の積極的な姿勢は評価に値する。理事者側のオンライン化については、防災・減災の観点で緊急時などを考えると必要不可欠な問題であり、理事者とのオンライン化は必要であると考えます。本市議会はペーパーレス化も含め、その方向性を確認しておく必要があると考えます。</p> <p>○オンライン委員会の取組については、必要に迫られ可及的速やかに開催された印象を受けた。オンライン会議のありようにはまだまだ整理すべき課題があると再認識できた。オンラインによる委員会開催について、設備やインフラ整備には特</p>

	<p>に高額な予算をかける必要もなく技術的に可能であり、ハードルは決して高くないことも分かった。ペーパーレス化については、議会だけではなく執行部側にも投げかけているとの説明を受けたが、これが実施できれば相当数の紙量を削減できるのではないかと考える。</p> <p>○委員会のオンライン開催に向けて委員会条例を改正され、マイクロソフト・チームズを活用してオンライン委員会を開催されている。全議員の機器にマイクロソフト・オフィス365を導入しており、新たにZOOMを導入するのではなく、価格面でもマイクロソフト・チームズを導入し活用されている。本市議会では委員会条例を改正するに当たり、有事にも活用できるよう文言を整理すべきである。運用面等において子育て、介護、看護等やむを得ず出席できない場合にオンラインで対応できるよう要綱で定めていくのか、幹事会や秘密会の取扱いはどうするのかなどは課題である。</p> <p>○オンライン委員会のネットワーク環境について、議会棟内の議場、委員会室、会議室、会派控室に無線アクセスポイントを設置し、議会事務局のインターネット回線から接続しているとのことであった。オンライン委員会の実施に向けた検討・協議がされており、災害等緊急時のタブレット端末を活用した議会や議員の役割体制についても、しっかりと検討し組まれていた。オンライン委員会の位置づけや開催の要件を明確に定め、試験的な接続テストなども行われていた。</p> <p>○ペーパーレス会議が実施されており、本市議会でも実施予定であることから、1台のタブレット端末でいかに有効かつ迅速に資料チェックできるようにしていくかが課題である。</p>
<p>委員意見等</p>	<p>○本市議会でオンライン会議を実施するためには、タブレット端末を各議員が使いこなす必要がある。また、法務関係として条例等の改正が必要であり、早急に検討してまとめていきたい。理事者側への説明やネット環境の整備も必要となる。</p> <p>○委員会のオンライン開催については、倉敷市議会も始めたばかりであるが、少しずつであれ順序立てて推進していけば、万全な形が見えてくると考えられる。積極的な姿勢が大事であることを学べた。</p> <p>○委員会のオンライン開催について、倉敷市議会の場合は、コロナ等の感染症と災害等に限定して条件整備された。感染症による必要性が増した時期に、オンライン開催に向けていち早く条例改正や申合せを確認され、早々にオンライン委員会を実施された経験には学ぶべき点がたくさんあった。実際の条例改正のポイントも資料としていただいたので、亀岡市議</p>

会でも検討を進めていけるのではないか。これが、病気や怪我、育児休業、介護・看護休暇などにも対応しようとするとう出席扱いの是非など難しくなると思う。私は、昨年1カ月間怪我で入院し議会に迷惑をかけたが、そのような場合でもオンラインで議会活動に寄与できるのであればよいと思う。ペーパーレス化の課題はどこも同じようなことが挙げられている。執行部とのやり取りがどこまで可能かを亀岡市議会でも検討していかなければならない。余談であるが、ペーパーレス化について視察を受ける場合、同じようにペーパーレス化を目指してタブレット等を持参する視察相手には、紙資料を事前に送って、タブレット端末に入れてもらうことができるのではないかと思った。ペーパーレス化と言いながら、膨大な紙とインクを使わせてしまったことが皮肉な感じであった。亀岡市議会が完全ペーパーレス化を果たした暁には、タブレット持参の視察団にはそのような資料提供ができればよいと思う。

- オンライン委員会について、これまでに当委員会でも議論してきたが、条例や要綱、運用基準の整備で多面的に検討すべきである。インフラ整備や設備に大きな課題は特に散見されず、今後さらに環境整備に努めていきたいと考える。ペーパーレスについては、執行部に対しても拡大していきたいと考えるが、全ての紙を即ペーパーレス化することには、順序立てて行う必要があると考える。
- 有事の際にオンラインで委員会が開けるようにすることは、議会機能を維持するために大切である。真っ先に整備する必要があるが、市民が委員会の様子を見られるように常任委員会のYouTube配信と併せてその手法を研究する必要がある。要綱などで子育て、介護、看護等どこまで範囲を絞って記載するのか、自己申告でよいのか、医師や専門家の診断書や状況証明書を添付し提出するほうがよいのか。常識では考えられないことをする議員が全国的にはいる中で、様々な可能性をもって議論すべきである。
- 亀岡市議会においても、今後、タブレット端末を活用したオンライン会議のテストや、実施に当たっての制度づくり、条例づくり等の検討会を持ち、積極的に挑戦していくことが大切になってくると思う。
- 1台のタブレットでいかに有効かつ迅速に資料チェックできるかの手法を検討する必要がある。また、オンライン委員会等の開催に当たっては、いかにセキュリティ対策を行うかが重要である。